

「子ども達の未来のために」環境シンポジウム報告書

日時：2014年2月15日（土） 14:00~18:00

会場：銀座 紙パルプ会館 3F5 会議室

参加費：無料（希望者には資料を有償頒布）

シンポジウム概要

基調講演

黒田洋一郎氏に「子供たちの未来のために」として、ネオニコチノイド系農薬がどのように人体に被害を及ぼすかを説明いただきました。近年のミツバチの大量死には諸説ありましたが、ネオニコチノイド系農薬などの農薬汚染が原因となっていることが分かってきました。人とミツバチの神経系は基本的には同じため、ミツバチの行動に影響を及ぼすということは人間にも影響を及ぼし、特に胎児期や乳幼児期に被ばくしてしまうと影響を受けやすいそうです。これは脳の脳



黒田洋一郎氏

幹という化学物質をブロックする機能が胎児期には機能していないためです。遅発性といって、農薬を浴びた直後（亜急性）ではなく、数か月または数年してから影響が出ることが分かってきており、因果関係が証明されにくいことが被害を拡大させる一因となっているようです。自閉症児、発達障害といわれる子どもたちが増えていることは国際論文でも報告されており、早急に対応しないと被害が拡大するそうです。ミツバチ大量死についても、国際的な論文が発表されているので国際社会の声に耳を傾けるべきと解説されていました。

自閉症児、発達障害といわれる子どもたちが増えていることは国際論文でも報告されており、早急に対応しないと被害が拡大するそうです。ミツバチ大量死についても、国際的な論文が発表されているので国際社会の声に耳を傾けるべきと解説されていました。

生きもの認証について報告会

FTPSの徳江倫明氏に有機農業の歴史と認証基準について、有機認証の歴史と生きもの認証の目指す部分について説明頂きました。従来の有機JAS認証は日本農業全体の1%未満と少なく、消費者への訴求効果が低い上に罰則があり、慣行農法にはないなど、参入するためのハードルが高いこと、生きもの認証はネオニコ系農薬だけでなく環境にも配慮した農業であり、民間でも国際的なガイドラインに沿っているので客観性、透明性があることを発表いただきました。



徳江倫明氏

生きもの認証現場報告・ネオニコフリー地域づくり

稲敷市釜井地区生産者の丸山訓氏、笠間市上郷地区生産者の生駒敏文氏、大子町生瀬地区生産者の谷田部好三氏から各地域での成果報告

丸山氏はネオニコ系農薬不使用の田んぼ作りと共に、日本みつばちの飼育の現状と課題について解説し、環境づくりとして今後蜜源作りに努めていきたと話していました。

生駒氏は地域で2013年度は39人中36人空中散布を中止してくれ、点から面に活動が広がっていること、当たり前のように使用している農薬を使わないできちんとしたお米ができるのか不安であったが、実際には苗箱処理、空中散布をしなくてもきちんとした米ができるということを離してくれました。



成果発表・丸山訓氏

谷田部氏によると農薬は一反部当たり五千円ほどかかるので、農薬不使用にすることで収益的に赤のでない農業経営をすることができたということ、消費者に訴求効果があり、ストーリーのある米作りのためにこうした活動を今後も継続していきたいと話していました。

パネルディスカッション「生きもの認証を拡げよう」

ディスカッションでは、パネリストとして生産者の丸山訓氏、生駒敏文氏、谷田部好三氏、流通関係者として、らでいっしゅボーや株式会社の後藤和明氏、行政関係者として茨城県庁農林水産部農業推進室諸澤俊彦氏に参加頂きました。

後藤氏からは現在の農業にはネオニコ系農薬が不可欠であること、その中でも果樹の使用には欠かせないので、中止の方向にするのは難しいという現状と、消費者の安全だけでなく環境について配慮するという視点が今後必要になってくるという説明を頂きました。

諸澤氏は20年以上農業について関わってきたが、こうした場で様々な立場の方々からの意見を聞き、今後に反映していきたいと話していました。また、現在流通している作物の多くは品種改良されており、農薬使用を前提としているので無農薬に切り替えると極端に収量が落ちてしまい経営が成り立たない現状について説明いただきました。

ここで、参加者よりもっと消費者目線になって子どもたちの未来を考えて農薬中止を推進してもらいたいという意見がありました。

それに対して、徳江氏より現在の有機宅配の規模では急速に農薬中止に変えることは難しい現状があるが、消費者から「こうしたものを買いたい。」と声を上げ続けることの大切さを説明していただきました。それに対して御園氏からは埼玉県小川町では20年以上無農薬で農業を継続させてきた実績があるので、是非ネオニコ系農薬中止、無農薬での農業を実現させていきましょう、という声がありました。

水野氏からは、ミツバチの被害を考えるならネオニコ系農薬から有機リン系農薬に切り替える方がよいのではないかという意見がで、中下氏より有機リン系農薬、ネオニコ系農薬どちらにしても人体への被害は無視できず早急に中止したほうがよいという意見がありました。

黒田氏より、50年、100年前は無農薬は当たり前であり、被害があることはわかってきているのでネオニコ系農薬を何らかの方法で中止するようにしてほしいとのことでした。



成果発表・生駒敏文氏



成果発表・谷田部好三氏



パネルディスカッション・水野氏



パネルディスカッション御園氏